

停電による断水に備えましょう

災害等で 停電した場合の対策

貯水槽水道は、電動ポンプで水を送っているため、停電時には断水する恐れがあります。停電やポンプの不具合等により、貯水槽内の水が送水できず断水が発生した場合は、貯水槽設置者の責任となり、貯水槽設置者による住民への対応が必要になります。いざというときに備え対策をしておきましょう。

例 水道水が貯水槽に入る手前のじゃ口などから住民の方へ給水できるように準備しておく。

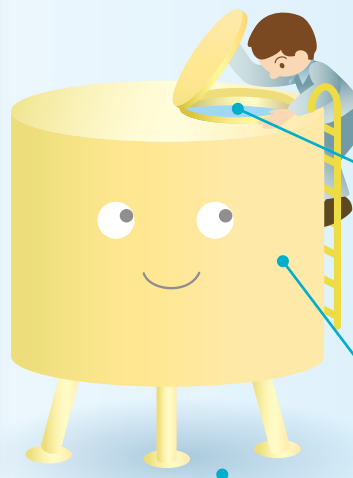
和泉市 貯水槽水道

検索

お問い合わせ 水道工務課 ☎99-8151

マンションや
集合住宅などの
管理者の方へ

市から供給された水を貯水槽に受けた後、利用者に給水する設備を「貯水槽水道」といいます。多くのマンションや集合住宅などで使用されている貯水槽水道は、設置者（管理者）が自らの責任で管理しなければなりません。適切な管理をよろしくお願いします。



貯水槽 周辺の 点検

水槽の周辺を清潔に保ち、水槽のふたやフェンスは必ず施錠してください。

水質 検査 の実施

じゃ口から出る水を定期的に検査してください（色・にごり・におい・味・その他の異常）。異常があれば、水質検査を専門機関へ依頼してください。

残留 塩素 の測定

残留塩素は0.1mg/L以上検出される必要があります。検出されない場合は、水の長時間滞留などが考えられます。定期的に測定しましょう。

貯水槽 の清掃

年1回以上、定期的に専門の清掃登録業者に依頼し、清掃を行ってください。

貯水槽 の点検

水槽に亀裂が無いか内部に異物が無いかなど、定期的に点検してください。

日頃から飲料水を備蓄しましょう

飲料水

人が生きていくためには、1人1日3リットルの飲み水が必要とされています。ご家庭では、3リットル×ご家庭の人数の水を3日以上備蓄しましょう。

飲料水の備蓄量目安

1人1日3L×人×3日分=L

ペットボトル水
などの備蓄が
便利です

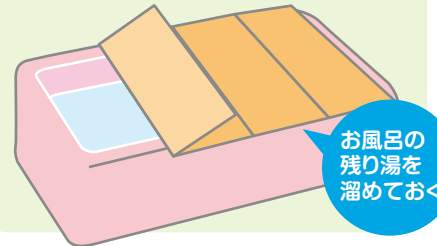
水道水でも備蓄はできますが、入れ替える手間などが省けるペットボトル水の備蓄が便利です。賞味期限の近いものから使い、補充しておきましょう。

生活 用水

水道の復旧までの間、生活するのに必要な飲料水以外の水も備えておきましょう。

お風呂の残り湯があると、トイレを流す水などに使えます。

浴槽にお子さまが転落しないようご注意ください。



お風呂の残り湯を溜めておく

和泉市における 水道事業の 統合について

和泉市では、令和4年1月に大阪広域水道企業団との間で「水道事業の統合に向けての検討、協議に関する覚書」を締結し、本市を含めた府内7市が令和6年4月の水道事業の統合に向けて、検討、協議を進めてまいりましたが、令和5年第1回の定例会における本会議で統合に関する議案が否決となり、今回の統合は見送ることになりました。

和田浄水場 夏休み 施設見学会

和田浄水場を見学することで、水道水の安全性や大切さを知っていただけるよう、小学生とその保護者を対象に施設見学会を開催します。



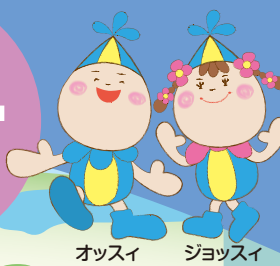
場 所 和田浄水場（和泉市和田町1番地）
実施内容 施設見学、実験など
日 時 8月5日（土）〔第1回 午前9時30分～〕
〔第2回 午前11時00分～〕
見学時間約1時間／回
※各回開始の10分前に和田浄水場に集合
※浄水場内、駐車場あり
募集対象 和泉市在住の小学生とその保護者または関係者
募集組数 各回10組まで
募集期間 7月10日（月）から定員に達するまで
申し込み 浄水課 ☎92-8168（平日：午前9時～午後5時）

和泉市

上下すいどうだより

発行 和泉市上下水道部
TEL.0725(99)8148
FAX.0725(57)0052

No.54
2023.7.1



オッスイ ジョッスイ

暮らしの中の下水道

私たちは生活の中で多くの水を使いますが、使い終わった水はどこに流れていくのでしょうか。これらの生活排水は、下水道管へと流れます。普段は目にする事のない下水道ですが、見えないところで私たちの安全・安心で快適な生活を支えています。下水道にはどんな役目があり、和泉市がどのような事業を行っているかをご紹介します。

下水道の 役割

街を きれにする （汚水処理）

家庭で使った汚れた水（汚水）は下水道管へ流れます。下水道管が整備されると汚水が直接道路の溝や水路に流れなくなるため、まちが清潔に保たれます。

下水道が街の
安全や水環境
を守っている
んだね

浸水から 街を守る （浸水対策）

街に雨水が溜まり、浸水しないように下水道は市街地の雨をすみやかに排除し私たちの暮らしを守ります。

川や海を 守る （水質改善）

家庭や工場等から出た汚水は下水道管を通して下水処理場へ。きれいになった水は再び川や海へ戻します。

令和5年度 水道・公共下水道・公共浄化槽事業会計予算概要

水道事業会計

災害に強いライフラインの確保

市内へ安定した給水を行うため、管路の計画的な整備を行うとともに、老朽化した管路の更新と耐震化に取り組み、災害に強いライフラインの確保に努めます。

予算の内訳

水をお届けするための収支	施設を整備するための収支
収入 36億3,062万円	収入 9,231万円
支出 35億1,351万円	支出 16億4,425万円

業務予定量

給水戸数	80,200戸
年間給水量	18,080,000m ³
1日平均給水量	49,399m ³
おもな建設改良事業	11億2,167万円
送・配水管布設工事	
口径75mm～400mm	3,380m

公共下水道事業会計

安心して下水道を利用いただくために

快適な生活環境を確保するため、国庫補助金や企業債を活用し下水道を着実に整備するとともに、水洗化を促進します。また、安心して下水道を使っていたけよう適切な維持管理に努めます。

予算の内訳

汚れた水を処理するための収支	下水道を整備するための収支
収入 42億3,616万円	収入 16億6,509万円
支出 38億9,894万円	支出 30億3,636万円

業務予定量

水洗化人口	151,000人
年間有収水量	16,222,000m ³
おもな建設改良事業	10億4,483万円
下水道管布設工事	
口径200mm～800mm	3,492m

公共浄化槽事業会計

公共浄化槽を整備するために

生活排水の適正な処理を促進し、住民の生活環境の向上及び公共用水域の水質保全に資することを目的として、下水道全体計画区域以外の地域において市が主体となって合併処理浄化槽の設置及び維持管理を行います。

予算の内訳

汚れた水を処理するための収支	
収入	4,371万円
支出	4,371万円
浄化槽を整備するための収支	
収入	834万円
支出	834万円

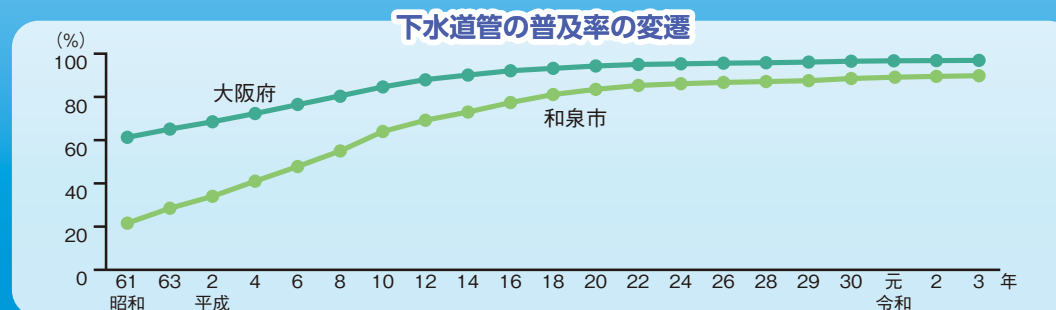


「暮らしとまちを支える下水道」を守ります



和泉市の公共下水道事業は、下水道計画区域の大部分を占める市北部地域において、昭和50年度に都市計画決定を行いました。

昭和52年度に下水道（雨水）の整備を始め、昭和60年度に下水道（汚水）の整備を流域下水道の進捗に合わせて開始し、平成元年度に供用を開始しました。事業を始めた昭和60年度の下水道普及率は18.9%でしたが、その後、和泉中央丘陵地区や宅地の開発が進み下水道普及率は増加し、令和4年度末の下水道普及率は90.1%になっています。



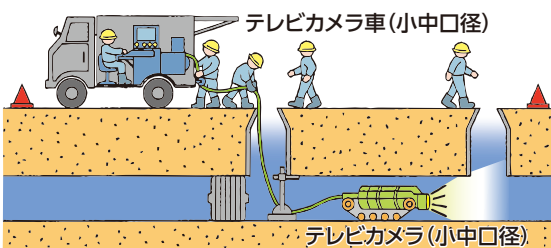
衛生や安全に関わる
下水道は、管理を
しっかりとって
いかなければね

まだまだ元気？ 和泉市の下水道施設の現在位置

和泉市には下水道管やマンホールなどの下水道関連施設が約670km布設されています。これを全部直線につなげると和泉市から仙台市（宮城県）までの距離と同じくらいの距離になります。この下水道施設は下水道事業が始まった約50年前から順次布設されていて、下水道施設の標準耐用年数である50年を越えた施設もあります。



下水道を長く大切に 維持・管理するには？



この膨大な長さの下水道施設を維持・管理するには、莫大な費用や時間が必要です。そこで、計画的かつ効率的に維持管理を行うため、「ストックマネジメント手法」を採用しています。これまで下水道の施設管理は、施設が破損したら修繕する「事後保全型」でしたが、下水道施設の経年劣化にともなう、今後は定期的に下水道施設を点検・調査する「予防保全型」の施設管理を行う必要があります。このことから、単純に施工の古い順に改築・更新するのではなく、劣化状況や破損した場合の影響及び将来における危険度等を分析し、点検・調査の優先順位を定め、将来における効率的な改築・更新の実施を目的とした計画を立てています。これをストックマネジメント計画といい、下水道施設をもっと長く大切に使うために欠かせない計画です。

1 点検・調査の優先順位

老朽度と被害規模を点数化し、老朽度が高く、被害規模が大きい点数の高い下水道施設から優先順位を定めます。

2 点検・調査の実施

優先度の高い施設の点検・調査を実施し、劣化状況を把握します。

3 改築・更新や修繕の実施

点検・調査で不具合のあった施設の改築・更新や修繕を計画的に実施することで、改築・更新費と更新事業量の最適化を行います。

